

膳所高 全国へトライ

7月に東京で開催される「アシックスカップ2017第4回全国高校7人制ラグビー大会」(読売新聞社など後援)に、大津市の県立膳所高ラグビー班が初めて出場する。県内有数の進学校で文武両道がモットーの同高。練習時間が限られる中で全国切符をつかんだ。選手たちは「挑戦者として臨み、全力でぶつかりたい」と闘志を燃やしている。(北瀬太一)



7人制ラグビーの全国大会に向けて練習に励む選手たち(大津市で)

来月、東京で7人制ラグビー大会

「体を引くな。引いたら負けるぞ。ぶつかっていけ」。同高のグラウンドに声が響く。体勢を低くしてタックルする選手。受けた方も倒れまいと踏ん張り、パスを出す。全員が土にまみれながら、楕円のボールを追いかける。

ラグビー班は戦後間もない1948年の創部。花園ラグビー場(大阪府東大阪市)で行われる15人制の全国高校ラグビー大会には87年度、97年度、2002年度の3度出場している。現在は約30人が切磋琢磨する。

7人制ラグビーはセブンズとも呼ばれ、15人制に比べて認知度は低いが、16年のリオデジャネイロ五輪で正式競技に採用。20年の東京五輪に向けて高校年代の強化が進められ、同高も14年の第1回大会から県予選に出場している。7分ハーフで行われる以外は基本的にルールは15人制と同じ。フィールドの広さも変わらないため、スピーディーなプレーが見られる。

今年4月15、16日に県予選があり、9チームが出場。膳所は2回戦から登場し、初戦は比叡山に43―5で大勝。準決勝は

文武両道モットー 「挑戦者として全力で」

滋賀学園を24―19で退け、決勝では八幡工を接戦の末、24―21で破り、初優勝を飾った。

「7人制に特化した練習はしていない」と奥村亮監督(29)。平日の練習は1日2〜3時間。効率よく練習するため、一つのメニューを約15分に区切って、集中して取り組んでいる。「7人制の試合運びやスピード感が、うちの練習方法に合っていた」と分析する。

昨年度の全国高校ラグビー県予選で、光泉に決勝で敗れた後、新チームとして冬場に筋力トレーニングと走り込みでフィジカルを強化したことも効果的だった。高校入学からラグビーを始める選手が大半で、「伸びしろが大きく、見違えるような成長を見せてくれる」(奥村監督)という。

本番まで残り約1か月半。少ない時間を有効に使って練習するのはこれまでと同じだ。奇策や小細工はしない。3年・阪口健也主将(17)は「自分自身にとって初の全国でワクワクしている。焦ることなく、1勝に向かって一歩でも前に進みたい」と意気込む。

花園では過去全て初戦敗退。「全国初勝利」を目指し、奥村監督は「選手たちの力を引き出し、ラグビー班の歴史に名を残したい」と話している。